

sprout!

JDBA2014

2014.5.25

ドッジボールは

Easy 誰にでも**気軽に**参加できる

Flexible 多様なニーズに**柔軟に**対応できる

Free 楽しみ方を**自由に**変えられる

スポーツを目指します

協会設立以来23年間培ってきた伝統を維持しつつ、
新規競技者の発掘、**多様なニーズ**への対応、**新しい楽しみ方**の提案など、
積極的な事業展開にチャレンジします。

Contents

- 1 現状分析
 - 2 普及戦略
 - 3 人材育成戦略
 - 4 成長戦略
 - 5 基盤構築戦略
-

2011.6「NEXT10構想」

「この20年間で、ドッジボールは小学生を中心に爆発的なブームとなり、競技スポーツとして広く知られ、全国的に普及が図られた。全国大会という夢の舞台が設けられたことにより、競技者、指導者が夢を抱いて活動し、競技人口が増加した。

しかし、一時のブームが去り、同時に支援する企業や団体の数も減少、協会運営が徐々に厳しさを増している。協会は課題を明確にし、緻密かつ大胆な構想をもって運営にあたることが急務となった。

この度の理事改選を機に、次の10年を一つの区切りとしてドッジボールの発展に向けた諸策を展望したい。」

〔構想の骨格〕

- 1 協会組織の基盤整備
 - 2 財務の健全化
 - 3 現在所属しているチームの強化
 - 4 普及活動の本格化
-

2011.6「NEXT10構想」

重点1 協会組織の基盤整備

(1) 県協会との連携強化

- ・事務局長会議などの設定
- ・協会運営に携わる人材の発掘

加盟団体総会の実施

(2) 関係機関との関係強化

- ・日体協,レク協,諸団体,企業

日本体育協会加盟

重点2 財務の健全化

(1) 徹底した経費節減

①人件費抑制

- ・会議費,派遣費の支出規準を見直し

②事務局経費見直し

③全国大会運営方法の抜本見直し

全日本選手権 女子大会分離独立

(2) 収入の確保

①協会公式グッズ販売

②公認商品のロイヤリティー確保

公認企業制度

③企業との積極的な提携

2011.6「NEXT10構想」

重点3 現在所属しているチームの強化

~指導者育成~

- (1) 優秀指導者表彰制度の創設
- (2) 指導者協議会(第1回コーチングクリニック)の開催
 - ・ 23年9月より,全国3ヶ所で実施。

※ 将来の公認指導者育成制度(仮称)の創設を見据えて **公認指導者制度**

~競技力向上~

- (1) 全国大会(D-1,D-1G)の定着・企業へのプレゼン強化
- (2) 優秀選手表彰の創設
 - ・ 夏・春の全国大会で表彰(規準策定など要検討)
- (3) 審判員講習会(中央研修会)の継続実施

2011.6「NEXT10構想」

重点4 普及活動の本格化

(1) D-2,D-3のビジョンを策定,周知を徹底

(2) 学生・社会人大会「JDBAシニアチャンピオンシップ」の開催

・23年度,3ヶ所で開催 25年度7カ所で開催

(3) 学校,行政,企業との連携

1ドッジボール教室(23年度,9ヶ所で開催)

2ドッジボールスクール(ミズノ)

(4) 県協会に対する指導助言

・ D-2カテゴリー促進策を展開,モデル事業の推進

1 幼児期からの一貫指導体制を構築する

幼児の運動・スポーツ離れが進んでいることを踏まえ、各クラブにおいて幼児への「運動遊び・ボール遊び」の指導を推奨する。

2 優れた指導者の発掘と育成を推進する

公認指導者を養成し、地域のスポーツ振興に寄与することで、安定した競技者獲得とクラブ運営を可能にする。

3 柔軟なスタイルでの楽しみ方を提案する

主に成人を対象に、従来のルールやレギュレーションにとらわれない新しいスタイルでの楽しみ方を提案し、ドッジボールへの関心を高め、新たな愛好者を発掘する。

1 現状分析

協会をめぐる現状と課題

児童生徒数の減少 (文部科学省調べ)

ほとんどの競技団体が参加者数、会員数が減少。対策に追われている。

指導者に係る諸問題 (日本体育協会調べ)

体罰・暴力の問題など、指導者を取り巻く環境が一段と厳しさを増している。

指向の分散傾向

スポーツ不参加率の上昇。若い世代のレク指向が強まっている。(日本レクリエーション協会調べ)

普及施策の欠如

普及委員会の機能不全。チーム数減少に対する対応策欠落。

2 普及戦略

普及委員会

- 1 児童生徒数の減少 → スポーツ未実施者の掘り起こし、誘導
「おやこドッジすくうる」
全国すべての協会で開催
公認指導者の取得要件に含むことにより、
クラブによる主体的な会員獲得を推進。

事業委員会

- 2 スポンサー企業撤退によるチーム負担増 → 大会運営費用の抑制
全国大会協賛企業獲得(2011年度よりタマノイ酢株式会社)
国際大会、全国大会参加チームへの支援企業を募集する
-

2 普及戦略

シニアカテゴリー

- 1 指向の分散傾向 → シニア、小学生初心者カテゴリの推進
日本代表(男子・女子)誕生、第1回アジアカップ開催
第2回**全日本選手権**(2月28日・東京体育館)
第1回**全日本女子総合選手権**(12月20～21日・東京) **開催**

普及委員会

- 2 普及施策の欠如
普及委員会の機能不全
チーム数減少に対する対応策欠落 → 普及カリキュラムの確立
「おやこドッジすくうる」全国で開催スタート
関東、関西の4会場では、日本代表を講師に迎え「小学生コース」を実施。
-

3 人材育成戦略

指導委員会

- 1 **個人登録制度の拡充** 審判員、指導者、選手(シニア)
登録料増収を図り、諸施策、サービスの実現を図る。
 - 2 指導者に係る諸問題 → 指導者の育成
「公認指導者制度」 制度施行
-

4 成長戦略

事業委員会

- 1 競技者数の減少 → 新たな競技人口の発掘
JDBAシニアチャンピオンシップ全国で開催
(全日本選手権・全日本女子総合選手権の参加資格獲得機会)
 - 2 **大会カテゴリーの大胆な見直し**
初心者・少人数をターゲットにした競技方法の検討を開始
-

5 基盤整備戦略

具体的施策

- 1 加盟団体との連携を強化 → 丁寧な事業説明(加盟団体総会実施)
 - 2 人財発掘・育成 → 実行委員会幹部に若手を登用
(大会運営への参画、成長戦略立案・実行)
 - 3 財務改革
 - ・増収増益を目指す取組 → 新規公認商品の取扱
新規協賛企業の獲得
主催大会の収益向上
-